

ご入園・進級おめでとうございます

～保育の可能性と魅力・

『つながる保育』をつくりだす～

坂みみょう保育園

桜の花が満開の中、新入園児26名を迎え、0歳児1名、1歳児21名、2歳児21名、3歳児31名、4歳児36名、5歳児36名の（途中入園予定17名の予定）合計146名と職員32名で新年度をスタートします。

昨年度も微妙福祉会の保育理念『感謝と思いやりのある、自主的な行動のとれる子』の育成を図りながら、コロナとの共生を念頭に「楽しい！」をモットーに保育園の運営をして参りました。

コロナ禍での保育運営は、状況判断をしながら試行錯誤の連続でしたが、保護者の皆様のご理解、ご協力の下、「楽しい！」を共有しながら多くの行事を開催できたことに感謝申し上げます。

しかしながらコロナ禍での保育は、『つながり』というキーワードで象徴されるように、人と人との出会いやつながり寸断してしまうことも多かったように思います。

今年度は新型コロナウイルス感染症が、感染症法により5/8より第5類に引き下げられ、マスク着用も強制ではなくなります。地域の中にある保育園の役割を意識しながら、各方面の地域の皆様とのつながりを運営の柱として、その知恵や知識をお借りしながら、『つながる保育』の幅を広げたいと思っています。

微妙福祉会グループ園では、みみょうの目指す保育・教育として①保護者との連携の下、しっかりと可愛がられ、受け止めてもらうことで、普通の愛情で満足する子に。②0歳の時から驚きと感動、楽しさを大人に受け止めてもらうことで信頼と安心感を育む。③好きなことを選んであそぶ楽しさを集中力と仲間作りにつなげる。④段階を踏んだ生活習慣の確立の支援をする。（2歳までの生活習慣が3歳からの知的発達を

左右する。）⑤仲間と一緒に考えたり、工夫しながらあそびの輪を広げる中で（あそび込む）主体性や非認知能力、状況判断、思いやる気持ちなどを身に付けていく。

この目指す保育・教育は、いろいろな人との『つながり』の中で、保育実践をすることで、実現されるのではないかと考えます。つながりがほどけてしまったコロナ禍は、孤立感を多くの人々が味わったことだと思います。

4月は、新入、進級と環境が変わることで、子ども達は、不安になったり、泣きわめいたり、保育園への行きしぶりになったり、反対にテンションが高くなり疲れたり、体温が上がることも（精神的疲労から熱が出たり食欲不振になる。）よくある姿です。

そんな時、子育てに悩み、保護者の皆様も我が子にだけ注意が向き、どうにかしなくてはと、子育てを楽しめなくなってしまふこともあるかと思っています。

職員は、子育ての悩みを共有しながら、子ども達が新たな出会いやつながりの中で、変化し成長する姿を色々な形でお知らせしていきたいと思っています。

保護者の皆様は子ども達が、自分が自分であることを尊重されているという実感が持てるよう、指示命令などの言葉は避け、温かい言葉やスキンシップをしっかりとってあげてみましょう。子ども達を真ん中に、保護者の皆様と職員が情報共有をしながら、楽しい子育ての伴走者としてともに学び合うことが大切です。

地域に在る保育園は、人と人とがつながりをつくりだす、可能性と魅力を持っている場だという信念を持ち、色々な視野から『つながる保育』を合言葉に、新年度のスタートをきりたいと思っているところです。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

（園長 倉本弘子）